

「鳥取県淀江産業廃棄物処理施設計画地下水等調査会」第6回会議の結果について

鳥取県淀江産業廃棄物処理施設計画審査室

1 日時

令和3年9月25日（土）午後1時から午後4時30分まで

2 場所 さなめホール（米子市淀江文化センター：米子市淀江町西原） イベントホール

（※）傍聴は、さなめホール大ホール、とりぎん文化会館第2会議室においてモニター傍聴

3 委員 しまだじゅん 嶋田 純 熊本大学名誉教授【会長】、すぎたふみ 杉田 文 千葉商科大学教授、いとうひろこ 伊藤浩子 一般財団法人地域 かつみたけし 地盤環境研究所主任研究員、かつみたけし 勝見 武 京都大学大学院教授、こだまよしのり 小玉 芳 敬 鳥取大学教授

（※）新型コロナウイルス対策のため、全委員がWEB会議で出席

4 結果（主な内容）

(1) 水理地質総合解析からの推測

- ・調査区域には、3つの帯水層（地表近くから第1帯水層、第2帯水層、第3帯水層）が広がっている。
- ・福井水源地の主要供給源である第3帯水層では、地下水位の等高線図（コンター図）によると、計画地と淀江平野の地下水の流れは同じ方向（南東→北西）を向いている。
- ※ 地下水の流れは、最終的にシミュレーションで明らかにする。

(2) シミュレーションモデルの設定状況

- ・水理地質構造のデータ等を基にシミュレーションモデルを構築し、現況再現解析を実施した。（初期設定値による解析）
- ・構築したモデルのパフォーマンス（計算時間、安定性等）には問題がなかったが、解析結果と実測値に乖離が見られる部分もあることから、透水係数等の検証を行い、再現性の向上を進めていく。

(3) 委員からの主な意見

- ・現地調査の結果に基づく地下水位コンター図や水質の分類からは、淀江平野と計画地の地下水は異なっている印象。今後、シミュレーションにより流れを検証していくこととなる。
- ・モデルに与える透水係数は、シミュレーションの結果を見ながら、試験で得られたデータの分布幅の中で採用値を決定することは論理的であり良い。
- ・今回了解した方法で、引き続き、より精度を高めていってほしい。

(4) 今後のスケジュール

- ・今回の議論を踏まえ、現況再現解析（モデルが算出する計算上の値と、観測データとを比較し再現性を向上させていく作業）を進め、シミュレーションモデルの妥当性を確認した後、地下水の流向等を把握する。

第7回調査会（12月頃）

途中段階の結果報告（予定）

第8回調査会（来年1月末～2月）

最終まとめ（予定）

(5) 傍聴

- ・新型コロナ対策として、別室でモニターによる傍聴を実施。傍聴者は19名（西部：さなめホール大ホール15名、東部：とりぎん文化会館第2会議室4名）。

地下水位コンター図 第3帯水層

※想定図

：第3帯水層の地下水流向(地下水位等高線より)

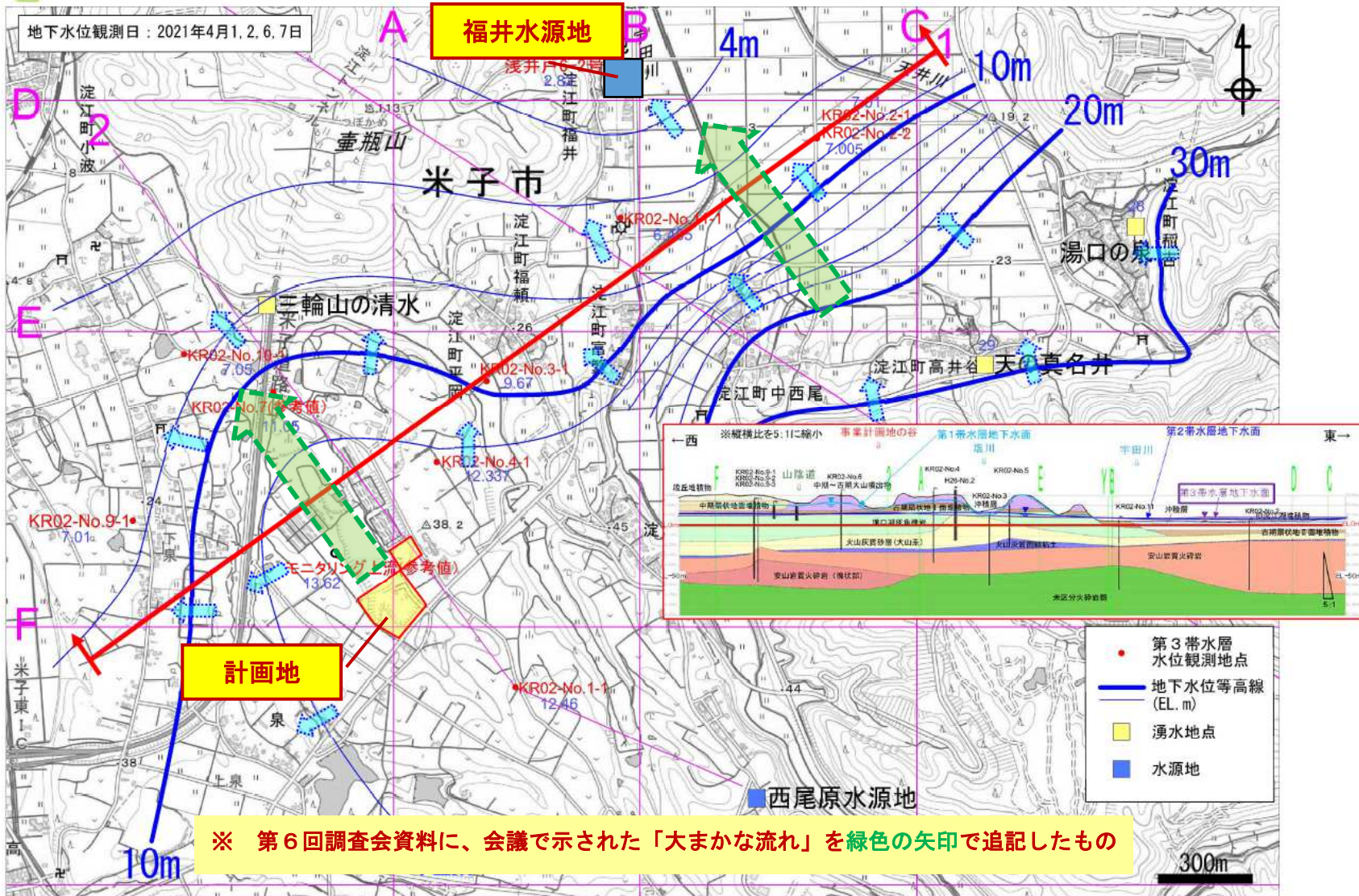


図 地下水位コンター図 (第3帯水層)